

2024年10月19日(土)

老球の細道834号

壁は破られ、後に続く者が必ず現れる

会津バスケットボール協会 室井 富仁

NHKの大好きな番組の1つに『映像の世紀 バタフライエフェクト』がある。10月7日に放映された「壁 世界を分断するもの」は特に興味を持って観ることができた。番組の案内に下記のように解説されていた。

【20世紀、東西に分かれた世界は「壁」を築いた。「ベルリンの壁」、朝鮮半島の「38度線」。21世紀に入っても壁は増え続けている。メキシコからの不法移民をはね返す「国境の壁」、イスラエルとパレスチナを隔てる「分離壁」…。一方で自由を奪う壁に挑む人も数多くいた。白昼堂々、ベルリンの壁を飛び越えた東独の若き警備隊員、壁の向こう側に残した恋人を救うためにトンネルを掘った大学生。壁をめぐる絶望と希望の物語】

スポーツにも壁はつきものである。なかなか勝てない、なかなか優勝できない、なかなか自己記録を破れない。しかし壁を破った時の喜びは人生の至福の瞬間となる。

10月16日(水)朝日新聞のスポーツ欄に「全日本大学出雲駅伝」で国学院大学が優勝した記事の隣に申し訳なさそうに「“サブテン”異次元の世界新」という記事が掲載されていた。10月13日に米国シカゴで行われた「ワールド・マラソン・メジャーズ6大会」の1つである「シカゴマラソン」で女子のルース・チェブングティッチ(ケニア)選手が2時間9分56秒の世界新記録を出した。従来の記録はティギスト・アセファ(エチオピア)の2時間11分53秒である。女子では2時間10分を切ることを「サブテン」と称され「不可能の壁」とされていたが、ルースはその壁を破った史上初の選手となった。

ちなみに2時間を9分台で走るということはどのくらいすごいことなのか。1,000mを平均3分(100mを18秒)のペースで42.195kmを走り切ることに相当するスピードである。足に自信のある人ならばわかるだろうが、このペースがどのくらいすごいことなのか。彼女はあのキプチョゲ選手等世界クラスの男子選手と練習を共にしているという。自然と男子のスピードに慣れていくそうである。バスケットでも同じである。

またまたちなみに、日本人女子選手の日本記録は前田穂南(天満屋)の2時間18分59秒。男子の世界記録はあのキプチョゲを越えてケルビン・キプタム(ケニア)が2023年シカゴマラソンで記録した2時間0分35秒である。男子も「2時間の壁」が破られるのは目前になっている。

「壁」を打ち破るのは肉体的な面よりも心理的な面が大きいと言われている。北極も南極もエベレストも誰かが到達すれば壁は破られ、後に続く者が続々と出てくる。無理という「決めつけ」が力の出し惜しみを招き、不可能を可能にすることを邪魔する。

閑話休題：私の弟の嫁様はワールド・マラソン・メジャーズ6大会(①東京②ボストン③ロンドン④ベルリン⑤シカゴ⑥ニューヨーク)走破を64歳にして達成した。己の壁に立ち向かう者は身近にいる。ぼやっとしてはられない。